

令和3年度 学校経営計画に係る最終評価

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題
1 学力向上 教材や指導法の工夫等により、家庭学習時間を確保するとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	① 授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Classi等の機能を効果的に活用し、学力を向上させる。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (81.1%)	GIGAスクール構想の実現に向けて、教員のスキルアップを図るための校内研修を年間を通して行い、ChromeBookを活用した授業実践に繋げてきた。次年度は一人一台端末が整備され、単元や場面を精選し、効果的に活用して学習意欲を高めていく。
	②	【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (87.6%)	ねらいや見通しをしっかりと提示した上で、分かりやすい授業を展開するため、教員が個々の生徒に応じて創意工夫を施して授業を行ってきた。次年度も互見授業を通して教員の指導力向上を図り、生徒の学力向上に繋げていく。
	③	【成果指標】 生徒が1日1時間以上の学習時間を確保している。	「家庭学習の1日平均1時間以上」と回答する生徒が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	D評価 (21.4%)	生徒の意識の醸成が図られず、家庭学習の習慣の定着が見られなかった。次年度も進路志望に応じた課題を用意するなど、スモールステップにて指導と支援を行うとともに、生徒にとって身近で達成感の持てる課題を設定し、家庭における学習意欲を高めていく。
	④	【努力指標】 生徒個々の学習状況や定着を図るために適切な質・量の課題を課すことができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、定着を図る課題を課している」と回答する教員が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	B評価 (79.2%)	教員が生徒個々の学習状況を把握でき、授業や学習のポイントに応じて課題や小テストの実施ができていた。次年度はこれらの取り組みを学力向上につなげられるよう、教科・課・学級担任で連携し、学習状況の改善を着実に進めていく。
	学校関係者評価委員会の評価		GIGA構想に向けた取り組みは評価できる。学校での学習をしっかりと定着させ、家庭学習については柔軟に対応することを考えてもよい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		ChromeBookによる双方向の学びを確立することにより、学力向上を図るとともに家庭学習の充実にも繋げる。			
2 基本的な生活習慣の確立 生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。	① 学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	【満足度指標】 生徒がはじめの不安定な生活を送ることができる。	「学校ははじめに対してお取組や指導をしっかりと行っている」と回答する生徒が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	C評価 (76.5%)	全校集会やSC講演会、防犯教室、非行防止教室等を通して人権意識の醸成と、自己肯定感を高める授業づくりの校内研修を行い、はじめの未然防止と早期発見に努めていた。次年度も授業中や休み時間の様子を観察し、毎週の生徒連絡会で情報交換を密にしていじめの未然防止に努める。
	②	【成果指標】 スマートフォン等の学習外使用時間を生徒が主体的に制限することができる。	「スマートフォン等の使用時間の1日平均」の回答が A 4時間未満 B 4時間～5時間未満 C 5時間～6時間未満 D 6時間以上	C評価 (5.7時間)	生徒自身もスマホ依存が進んでいることに余り不安を感じていない現状があり、改善が見られず楽観視はできない。次年度もスマホ依存の解消に生徒課と生徒会で協議し、継続して生徒や保護者に啓発していきたい。
	③	【努力指標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールを決め、ルールが守られている。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールが守られている」と回答する保護者が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	D評価 (38.5%)	P.T.A総会に諮り、家庭内でのスマホルールづくりを提唱したり、教育ウィークでスマホ生活の見直しについて話し合う機会を設けたものの意識改革に繋がっていない。次年度もP.T.Aと連携して、メリットとデメリットを理解したルールづくりを推奨する文書作成や集会等での啓発活動を通して自律行動へ繋げていく。
学校関係者評価委員会の評価		スマートフォンの使用時間が長いことに関して、必ずしも時間だけを指標にせず、その内容に目を向け、使い方の指導をしっかりとしていくべきである。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		スマートフォンの代わりにChromeBookを通して、これまで以上に探究する力を培うことができる学習活動を提供する。併せて、スマートフォンの使用については保護者向けの諸行事を通して働きかけていくなどして、望ましい人間関係の構築に目を向けさせていく。			

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析と課題
3 外部との連携と進路意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、生徒の進路意識を高め、進学や就職につなげる。	① 積極的な情報発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の進路意識を高める。	【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未決定者を抑制する。	「1年未決定者を10%以内、2年を5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	B評価	2年は進路ガイダンスが生徒の行動変容に繋がっており、1年は職業探究の授業により進路意識の向上は見られた。次年度も外部機関や同窓会等と連携した進路ガイダンスなど実施し、キャリア教育の充実を図っていく。
	②	【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者7名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C評価	事情により数人の進路変更が生じ、4年制大学進学者5名、就職決定率97%であった。次年度は低学年より進路情報を生徒・保護者と共有して、個に応じた進路指導を行う一方で、進学就職ともに学力試験への対策が急務である。
	③	【努力指標】 ホームページの充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (94.6%)	行事ごとに更新した本校ホームページや内灘高だより、学年だより、地域住民への学校理解促進の一助としての広報うちなだ等にて、学校の状況をタイムリーに発信しており、本校の教育活動が概ね保護者や地域の方に周知し理解していただいていた。次年度も積極的な情報発信に努める。
	④	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったと満足度を一層向上する。	「本校に進学して良かった」と回答する生徒・保護者が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (84.6%)	生徒85%、保護者95%が良かったと回答であるが、足りない部分をしっかり考察検討していきたい。次年度は1年早期に高校生活3年間を見通した目的意識を持たせ、全校生徒が協同的に学校生活を送るよう働きかけていく。
学校関係者評価委員会の評価		内灘高だより等により学校の様子や同窓生のことがよく分かって良い。生徒にとって日々の学校生活を通して卒業後の進路にどうつながるのかが重要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		内灘高だより、ホームページなどにより盛んに情報発信することができた。来年度はさらにリモートツールを活かし、生徒には卒業生や地域の教育資源を利活用して、積極的に進路情報を得ることができるよう、より一層の情報提供を行っていく。			
4 教職員の多忙化改善 時間管理を意識し、業務分担と協力体制により、業務の効率化を図る。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	B評価 (62.5%)	教員各々がタイムマネジメントを意識することができていた。次年度も実施要項や運営細案を常に時点修正しながら作成し、引き続き業務の見直しと精選を行いながら、精神的・時間的な余裕を持って、授業や学校行事での生徒との時間確保に繋げたい。
	②	【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (88.9%)	主任として業務の効率化を自覚しながら業務に当たっていた。次年度はさらに各教員の役割をしっかりと決めることで業務の効率化に繋がるとともに、主任として学校経営に参画している自覚を持ち、質的に業務の効率化を提案や実践を行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		教職員の多忙化改善はただちに改善することは難しいと思うが、生徒や先生のためにも大いに期待している。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方法		年度の後半になるにつれて時間外勤務が減少し、タイムマネジメントの意識化が進んだ。次年度は他課の業務を補助分担するなど、業務の効率化をより徹底することにより勤務時間の平準化を進め、生徒との時間確保に繋げていく。			